

競争力強化に向けた先行投資を上期に実施。 下期から次年度以降に向けて収益化へ。

売上高

720億
3千8百万円
(前年同期比+2.8%)

営業利益

21億
5千6百万円
(前年同期比-37.9%)

親会社株主に帰属する
四半期純利益

11億
7千5百万円
(前年同期比-51.6%)

1株当たり中間配当金

15円

総資産

1,213億
3千5百万円

純資産
(自己資本比率)

849億
2千5百万円
(67.9%)

1株当たり配当金

グループの成長と企業価値の増大、長期的な経営基盤の充実に向けた内部留保とのバランスを考慮し、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた利益還元に努めます。
1株当たりの配当金は年額20円を下限とした安定配当に加えて、業績に連動した配当として、連結ベースで配当性向30%を目標にしています。
(2019年3月期 期末配当予想)1株当たり25円(年間配当は1株当たり40円)

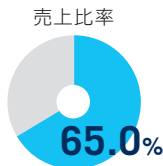
2019年3月期 業績予想

売上高 …………… 1,517億円
(前年同期比+3.1%)

営業利益 ………60億2千万円
(前年同期比-19.0%)

地上波放送事業

■売上高	561億3千3百万円 (前年同期比+3.7%)
■営業利益	19億8千万円 (前年同期比-39.7%)



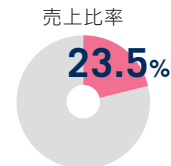
放送収入のうち番組を提供するタイムCM収入は、レギュラー部門でのベースアップに加え、「サッカーロシアワールドカップ」などの大型の特別番組が順調に推移したことにより増収となりました。また、番組の間流れるスポットCM収入は、東京地区全体が低調だったことにより減収となりました。

ソフトライツ収入では、海外配信販売、国内配信販売、CS番組販売が好調に推移しました。アニメ事業では、中国をはじめとした海外で「NARUTO」の配信、ゲームが堅調だったうえに、新たに「BORUTO」なども売上を伸ばしました。

【連結子会社】(株)テレビ東京

放送周辺事業

■売上高	203億4千7百万円 (前年同期比+9.3%)
■営業利益	15億9百万円 (前年同期比+4.1%)



通信販売関連では、オリジナルゴルフクラブがヒットするなど、テレビ・EC通販事業が売上を伸ばしました。

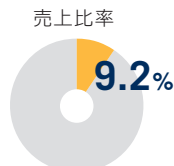
CS放送関連では、アニメ専門チャンネル「AT-X」の加入者数の減少は想定内だったものの、放送外事業の減少もありました。

音楽出版関連は、出資アーティスト関連収入は順調でしたが、代表権を持つ管理楽曲印税収入が振るいませんでした。

【連結子会社】(株)テレビ東京ミュージック／(株)テレビ東京メディアネット／(株)テレビ東京コマース／(株)テレビ東京アート／(株)テレビ東京システム／(株)テレビ東京制作／(株)テレビ東京ダイレクト／(株)テレビ東京ヒューマン／(株)テクノマックス／(株)テレビ東京ビジネスサービス／(株)イー・ティー・エックス／TV TOKYO AMERICA, INC.

BS放送事業

■売上高	79億8千6百万円 (前年同期比+2.1%)
■営業利益	6億円 (前年同期比+61.9%)



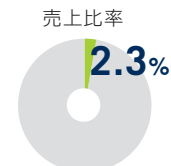
放送収入では、大型新規案件として、「女子サッカーワールドカップ中継」や「鈴鹿10時間耐久レース中継」を実施しました。特別番組は好調だったものの、レギュラー番組の減少を埋め切れず、タイムCM収入は前年実績に届きませんでした。スポットCM収入は前年実績を上回ったものの、放送収入全体で前年実績を下回りました。

その他、製作投資事業を伸ばして、ソフトライツ部門を中心に前年実績を大幅に上回りました。

【連結子会社】(株)BSテレビ東京

コミュニケーション事業*

■売上高	19億6千4百万円 (前年同期比-35.1%)
■営業利益	1億8千4百万円 (前年同期比+4.5%)



クロスメディア広告は計画を下回ったものの、テレビ東京公式サイトなどのプログラムマティック広告の改善効果が利益貢献しました。また、キャラクター事業が堅調に推移し、特に「カナヘイの小動物」の海外ライセンス売上が順調に伸びました。

一方、「虎ノ門市場」と「厳選いい宿」をテレビ東京グループ内で事業移管したことにより売上が大きく減少しております。

*「コミュニケーション事業」は、従来「インターネット・モバイル事業」として表示しておりましたが、2018年度第1四半期よりセグメント名称を変更しております。

【連結子会社】(株)テレビ東京コミュニケーションズ